

# 炭鉄港

空知と外を結ぶ



2011年●産業観光フォーラムで弾みがついた炭鉄港(札幌)



2016年●北海道遺産サミットに集う炭鉄港関係者(札幌)



2016年●NPOの仲介で島津興業と振興局が連携協定(MC)



2017年●北海道「炭鉄港」市町村議員連盟も発足(岩見沢)

これまでの実績を踏まえた

今後の活動展開の方向



2016年●美唄JC主催の子ども学習会へ講師派遣(美唄)



2015年●模範坑道改修計画立案のため技術支援仲介(夕張)



2014年●役員会員の取材・TV出演をアレンジ(MC)



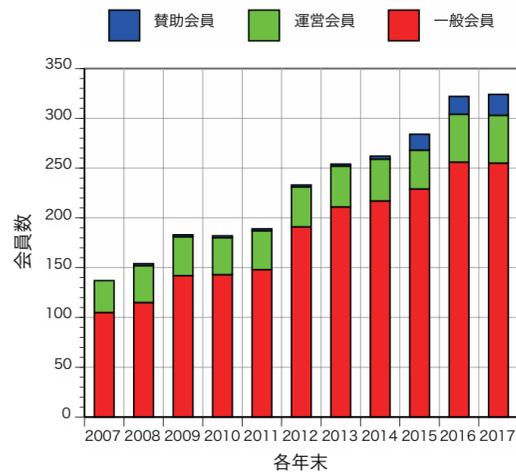
2013年●教育旅行を利用した外来種除去で一挙両得(三笠)

空知の中を結ぶ

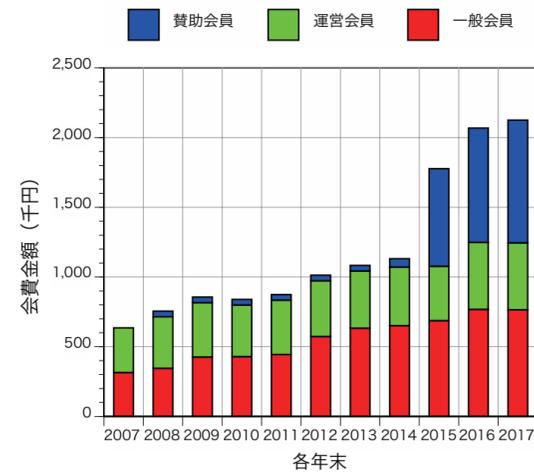
# Think&Do Tank

## FACT

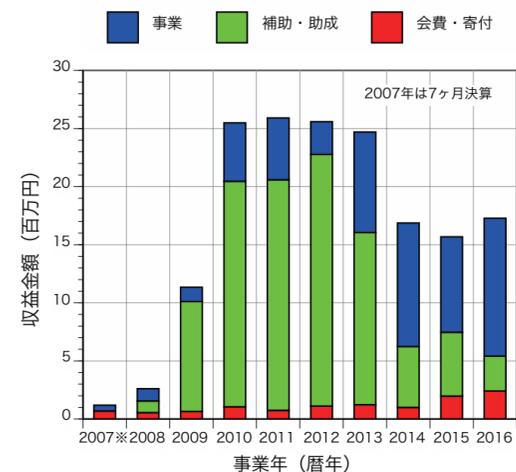
■会員数の推移



■会費総額の推移



■収益構造の推移



■マネジメントセンター:入館者数と職員勤務工数の推移



役員・職員	理事長	吉岡宏高	札幌国際大学観光学部、札幌市在住・三笠市出身
	副理事長	大橋二郎	(有)大橋設備工業、芦別市議会議員、芦別市在住
		植村真美	植村建設(株)、赤平市議会副議長、赤平市在住
	常務理事	酒井裕司	イメージランドスケーププランニング、札幌市在住
	理事	三上秀雄	コミュニティーガイドクラブTANtan、赤平市在住
		佐藤裕子	西野回陽堂、夕張市在住
		平野義文	(株)ハイテコス、岩見沢市議会議員、岩見沢市在住
	石川成昭	日本データサービス(株)、土木学会北海道支部選奨土木遺産選考委員、札幌市在住	
監事	加藤倫朗	植村建設(株)、赤平市在住	
	熊谷隆文	中国足心道夕張治療院「博仁館」、学芸員・元石炭博物館館長、夕張市在住	
事務局	事務局長	北口博美	
	事務局員	秋元さなえ・大倉加奈	

特定非営利活動法人 炭鉄の記憶推進事業団  
理事長 吉岡宏高  
〒068-0021 岩見沢市1条西4丁目3  
そらち炭鉄の記憶マネジメントセンター  
TEL 0126-24-9901 FAX 0126-24-9902  
http://www.soratan.com/

**No. 015**  
**10周年特報**  
2017/11/05

# おかげさまで 何とかかんとか 10周年

『炭鉄の暗い過去を払拭する』  
を払拭する

都会の人々が思うほど、炭山は暗くも悲惨でもない。実際そうであれば、これだけの人が炭山に残っているわけではない。

渡辺淳一『白夜・青芝の章』中公文庫

在るものを活かし  
無いものを創る

### これまでの経緯と活動

- 1998年 道空知支庁の独自事業を契機に管内各地の炭鉄遺産市民活動が徐々に活発化(A)
- 2001年 「空知の炭鉄関連施設と生活文化」が北海道遺産に指定される
- 2003年 日独交流ワークショップを三笠市・美唄市で開催(B)／赤平市で国際鉱山ヒストリー会議が開催される
- 2004年 炭鉄遺産を巡る「炭鉄を歩こう」キャンペーンを展開／住友赤平立坑(赤平市)で(C)
- 2005年 管内全首長が出席した炭鉄遺産サミットを夕張市で開催(D)
- 2006年 夕張市の財政破綻が表面化し市内の炭鉄関連施設の閉鎖が打ち出される
- 2007年 石炭博物館の指定管理者応募のため任意団体を設立／指定管理者が別法人に決定したのを受けて空知全域に活動範囲を拡大したNPOを設立
- 2008年 地域マスタープラン「そらち産炭地域活性化戦略」(北海道空知支庁)の策定に関与
- 2009年 岩見沢駅前にそらち炭鉄の記憶マネジメントセンターを開設／北炭幌内鉱山立坑(三笠市)で(E)
- 2010年 空知・室蘭・小樽を結ぶ「炭鉄港-北の近代三都物語」の展開スタート(F)
- 2011年 ●北炭火力発電所(夕張市)
- 2012年 ●住友赤平別館石炭積出ホッパー(三笠市)
- 2013年 産業観光・教育旅行の開発に着手(G)／国土交通省都市景観大賞など3賞を受賞／住友赤平別館石炭積出ホッパー
- 2014年 ●北炭清水沢火力発電所(夕張市)～住友赤平別館(三笠市)
- 2015年 石炭博物館(夕張市)の再生計画策定を支援／旧石炭の歴史村(夕張市)
- 2016年 道空知総合振興局からの委託で炭鉄港ストーリーを取りまとめ／住友赤平別館石炭積出ホッパー
- 2017年 ジャパン・ツーリズム・アワード国内・地域部門賞を受賞／住友赤平立坑口浴場／NPO創立10周年

### 「事業団」という名前に込められた意味

1960年代、エネルギー革命が吹き荒れ、国の強力なスクラップ＝アンド＝ビルド政策によって、炭鉄は次々と閉山しました。それを実行したのが、石炭鉱業合理化事業団(現在の新エネルギー・産業技術総合開発機構=NEDO)です。

2007年、北海道と空知の歴史を築いてきた炭鉄の記憶を、地域の再生に向けてクローズアップしようとして、炭鉄の記憶推進事業団を結成しました。国の産業政策の下で忘れ去られたものを、今度は市民の手によって蘇らせる。石炭鉱業の合理化から、炭鉄の記憶の再生へ。そして、単に検討だけで終わらず、着実に確実に実行しようという決意。

このような意図から、あえて事業団という言葉を用いたNPOの名前として採用したのです。

# NPOの10年

## NPO化以前の助走 1998～2006年



2001年●第1回幌内歩こう会当時課長だった西条市長も参加(三笠)



2003年●ブロックハウス博士を招いたフィールドワーク(三笠・美唄)



2004年●そらちARTプロジェクト(第1回赤平・関連催事コンサート)



2005年●炭鉱遺産サミット首長会議での政治的合意(夕張)

## NPO活動



2007年●石炭博物館運営応募のため任意団体を設立(夕張)



2007年●NPO設立総会の報道記事(毎日新聞・夕張)



2008年●第1回通常総会(夕張)



2017年●第10回総会後の会員交流会、多数の会員が参加(MC)

## マネジメントセンター



2009年●何も無い改装前のマネジメントセンター(MC)



2009年●開所式当日のスタッフ(MC)



2009年●備品もまばらな事務所・振興局野村主査との打合せ中(MC)



2017年●上の写真と同構図の現況、備品が相当増えた(MC)

## 記憶の保存継承



2008年●北炭送電線に沿って証言を記録(岩見沢万字)



2010年●スタッフ研修として朝日炭鉱について聞き取り(MC)



2010年●齊藤靖則さんが模型を作り始めた頃(MC)



2011年●保安展に合わせて住友赤平炭の炭鉱保安講演会(MC)

## 炭鉱の記憶ART proj.



2009年●NPO化後初のARTは山奥の布引立坑で開催(三笠)



2011年●清水沢発電所ARTに合わせ会員総出でズリ山整備(夕張)



2014年●清水沢～奔別を結ぶARTでは地蔵車が駆け巡った(三笠)



2015年●来訪者との対話でARTが炭鉱記憶の入口になる(夕張)

## 石蔵を活用した広報



2010年●石蔵に出現した作品としての炭住(MC:國盛麻衣佳さん)



2011年●石蔵で見事に再現された「炭山の灯」(MC:菊地拓見さん)

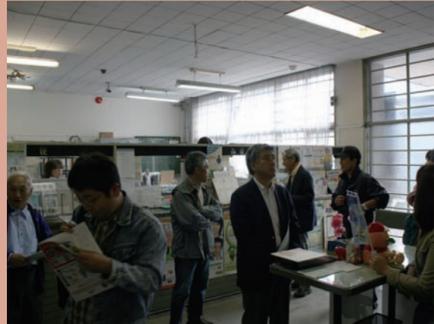


2016年●会員とのコラボで実現したジン鍋展示(MC:溝口雅明さん)



2016年●コンサート会場としても活用される石蔵(MC:NPO奏楽)

## 先駆的なツーリズム



2010年●今はなき我路簡易郵便局を見学(美唄:炭鉱建物ツアー)



2011年●空知の電気力ツアーで露天掘り見学(奈井江:三美鉱業)



2015年●ドイツRuhr炭田を1日25,000歩巡るツアーは毎年実施



2016年●菊島赤平市長・櫻庭月形町長も参加九州世界遺産視察ツアー